

だち、中將の御あたり尋ねて参りたまへり、さうかしくねおたかりつるおあり、よくものし給へるかなとて、おほみきまいり、ひみぢめして、すいばんなどとり、にさうどきつ、くふ、

〔源氏物語湖月抄常夏〕すいばん、河水飯、今の世にもありて、ひめと云物也、餅干飯などの類、水つけ、略孟ひめは飯をあつくして、冷水にてあらひて、冷汁にて食也、

〔源氏物語手習〕中將こ、におはしたり、略中あま君さうじぐちに木丁たて、たいめんし給、略中略人々にすいばんなどやうの物くはせ、君にもはすのみなどやうのものいだしたればなれに

しあたりにて、さやうのこともつ、みなきこ、あして、むら雨のふり出るにと、められて、物語しめやかにし給ふ、

〔枕草子九〕よろづの事よりもわびしげなる車に、略中齋院のえんがにまいりたる殿上人所の衆、

辨少納言など、略中所々の御前どもにすいばんくはすとて、さじきのもとに馬ひきよするに、おぼえある人の子どもなどは、さふしきなどおりて、馬のくちなどしておがし、さらぬもの、見もいれられぬなどぞいとおしげなる、

〔定家朝臣記〕康平三年七月十七日癸卯、大饗料理次第、納言以下、略中次水飯、湯漬代、立后

〔今昔物語二十八〕三條中納言食水飯語第廿三

今昔三條ノ中納言ト云ケル人有ケリ、名ヲバトゾ云ケル、三條ノ右大臣ト申ケル人ノ御子ナリ、身ノ才賢カリケレバ、唐ノ事モ、此ノ朝ノ事モ、皆昔ク知テ思量リ有リ、肝太クシテ押柄ニナム有ケル、亦笙ヲ吹ク事ナム極メル上手也ケル、亦身ノ徳ナドモ有ケレバ、家ノ内モ豊ナリケリ、長高クシテ大サニ、太テナム有リケレバ、太リク責テ苦シキマデ肥タリケレバ、醫師和氣ヲ呼テ、此ク極ク太ルヲバ何カセト爲ル、起居ナド爲ルガ、身ツ重クテ極ク苦シキ也ト宣ケレバ、ガ申ケル様冬ハ湯漬、夏ハ水漬ニシテ御飯ヲ可食キ也ト、其ノ時六月許ノ事ナレバ、中納言